

コロナ後のインバウンド

COLUMN
県内
大学発

経世済民

587

駿河台大学

新型コロナウイルス感染症を受けて、海外旅行は世界的にはほぼ完全に停止している。欧米諸国に比べて感染率が低い日本でも、海外からのインバウンドはほぼ完全に禁止されている。特に、旅行者の多い東アジア諸国との旅行交流が完全に停止したことは、日本経済に大きな影響を与えている。2021年5月13日に公表された20年度国際収支統計(速報)によると、海外とのモノやサービスなどの取引状況を示す経常収支の黒字は18兆2033億円であり、前年度に比べて3.8%減った。

新型コロナの流行が収束し、海外旅行が可能になった際には、人々の旅行パターンは変化

するのだろうか。ポストコロナの観光旅行に関する一つの見方は、「持続可能な観光」という旅行スタイルへシフトすることである。すなわち、旅行形態は、遠い場所よりも移動が少ない近距離の場所へ、都会よりも郊外型へ、もしくは農業を楽しむグリーンツーリズムなどへと変化する。これにより、ポストコロナの観光活動は、今までの観光活動の負の側面であった混雑・渋滞・ごみ・騒音などの住民生活への悪い影響が軽減され、持続可能性を重視する価値観に合った観光がグローバルに展開されること期待される。

筆者は20年12月に、過去3年間に日本への個人旅行を計画したことのある300人の台湾の

張 采瑜

准教授



消費者に対して、日本へ再訪する意向を調査した。筆者の調査では、新型コロナウイルスが収束して観光が再開した際には、300人中172人が日本観光に比較的に積極的であり、その多くは観光再開の半年以内に訪日旅行を計画すると答えた。このため、観光再開後のインバウンド需要の回復スピードはかなりの速いと予想される。日本を比較的に積極的に訪れたいと考えている回答者に、過去の主な旅行目的と、ポストコロナの時代(どこ)を旅行したいかを尋ねた。旅行目的としては、「グルメ」「ショッピング」「歴史・文化探訪」などが挙げられており、新型コロナウイルス以前と比べて、旅行の目的や関心について大きな変化は見られない。また、観光再開後にテーマパークは混雑するであろう消費者に対して、日本へ再訪する意向を調査した。筆者の調査では、新型コロナウイルスが収束して観光が再開した際には、300人中172人が日本観光に比較的に積極的であり、その多くは観光再開の半年以内に訪日旅行を計画すると答えた。このため、観光再開後のインバウンド需要の回復スピードはかなりの速いと予想される。日本を比較的に積極的に訪れたいと考えている回答者に、過去の主な旅行目的と、ポストコロナの時代(どこ)を旅行したいかを尋ねた。旅行目的としては、「グルメ」「ショッピング」「歴史・文化探訪」などが挙げられており、新型コロナウイルス以前と比べて、旅行の目的や関心について大きな変化は見られない。また、観光再開後にテーマパークは混雑するであろう

が、テーマパークに行きたいと回答する人数もほぼ変わっていない。観光に関する補助があれば、グリーンツーリズムに参加したいという回答者がいるが、政策的な支援なしに持続可能な観光にシフトすることは難しいと思われる。ただし、日本旅行の目的は変わらないとしても、訪日観光客の行動は新型コロナウイルスの影響を受ける。筆者の調査によれば、回答者のうち、51%が「首都圏などの混雑した場所は避ける」、49%が「レストランやホテル、日本政府の感染症対策の規定を満たした場所を優先する」と回答した。旅行者は、同じ目的地に行っても、宿泊・食事・移動の際には比較的に混雑していない場所を選ぶようになるだろう。その際、政府の感染症対策について観光客へ訴え掛けることが、ポストコロナのインバウンド復興に重要な役割を果たさだろう。

ちよう・さいゆ 1981年生まれ。台湾大学農業経済学部卒。東京大学大学院修了。博士(農学)。東京大学大学院農学生命科学研究科助教を経て2018年4月から現職。専門はフードシステムの実証分析。Asia Pacific Journal of Tourism Research; China Agricultural Economic Review などの国際学術誌に多数掲載。本調査内容の詳細は第114回日本観光学会において報告する。